



証券コード
5741

Aluminum lightens the world アルミでかなえる、軽やかな世界

株式会社UACJ

代表取締役 社長執行役員 田中 信二



登壇者プロフィール

代表取締役 社長執行役員 田中 信二

1963年生まれ。愛知県出身

24年4月に社長就任以来、国内外25か所で従業員と「繋ぐ」と称した対話会を実施中。趣味はウォーキング、ゴルフ。休みの日には商店街を散歩することも。



- 1987(昭62)年 住友軽金属工業 入社
- 2013(平25)年 UACJ 発足
- 2016(平28)年 UACJ(Thailand)Co., Ltd. 取締役
- 2018(平28)年 UACJ 執行役員
- 2021(令3)年 UACJ 取締役就任
構造改革本部長
ビジネスサポート副本部長
財務副本部長
- 2023(令5)年 UACJ 取締役 常務執行役員
サステナビリティ推進本部長
板事業副本部長(製造)
- 2024(令6)年 代表取締役 社長執行役員 就任

- 1. UACJの概要**
～どんな会社か。また、事業領域や規模はどのくらいか
- 2. アルミニウムとは**
～アルミニウムの持つ特性と、どこで使われているか
- 3. UACJの成長戦略**
～長期ビジョンと第4次中期経営計画について
- 4. 業績と株主還元**
～財務目標(第4次中計と今期)と還元の考え方

1. UACJの概要



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

2013年10月

古河スカイと住友軽金属工業の経営統合で誕生した 世界トップクラスのアルミ圧延会社

社名	株式会社UACJ
創業	1898年(大阪・住友伸銅場でアルミニウム圧延事業開始)
売上高	9,988億円(2024年度実績)
従業員数	連結10,203名(2025年3月31日時点)
主要な製造拠点	(国内)名古屋、福井、深谷 (米国)ケンタッキー州、ミシガン州 (タイ)ラヨン県

UACJの沿革

1890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010

日本のアルミ圧延業を
リードしてきた会社の
経営統合により誕生

古河電気工業アルミニウム事業

1910

アルミニウム電線の
研究を開始

1933

日光製造所
が完成

1942

鋳鍛製作所
が完成

1961

小山製作所
が完成

1983

福井製造所
が完成

スカイアルミニウム

1964

スカイアルミニウム(株)
を設立

1967

深谷製造所が完成

古河スカイ

2003

古河スカイ(株)設立
古河電気工業(株)と
スカイアルミニウム(株)の
アルミニウム事業を統合)

UACJ

2013

古河スカイ(株)と
住友軽金属工業(株)の
経営統合により、
UACJ(株)が誕生

住友軽金属工業

1898

大阪市の
「住友伸銅所」で
アルミニウム圧延事業
を開始

1935

住友金属工業(株)
を設立

1941

名古屋製造所が完成

1959

住友軽金属工業(株)設立
(住友金属工業(株)から分離)

UACJグループが目指す“軽やかな世界”

UACJグループ理念



企業理念 素材の力を引き出す技術で、持続可能な社会の実現に貢献する。

目指す姿 アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観 相互の理解と尊重
誠実さと未来志向
好奇心と挑戦心

コーポレートスローガン

Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

私たちUACJグループは、高品質なアルミニウムの供給を通じて、人びとの暮らしの向上や持続可能な社会の実現に貢献していきます。

アルミニウムの製造とUACJの事業領域

高度な鋳造・加工技術を強みに、お客様の多様なニーズに対応



UACJ の事業領域

5つの事業が連携し、幅広い産業分野へ最適なアルミ製品を供給



UACJ事業別 売上収益



航空宇宙・防衛材事業



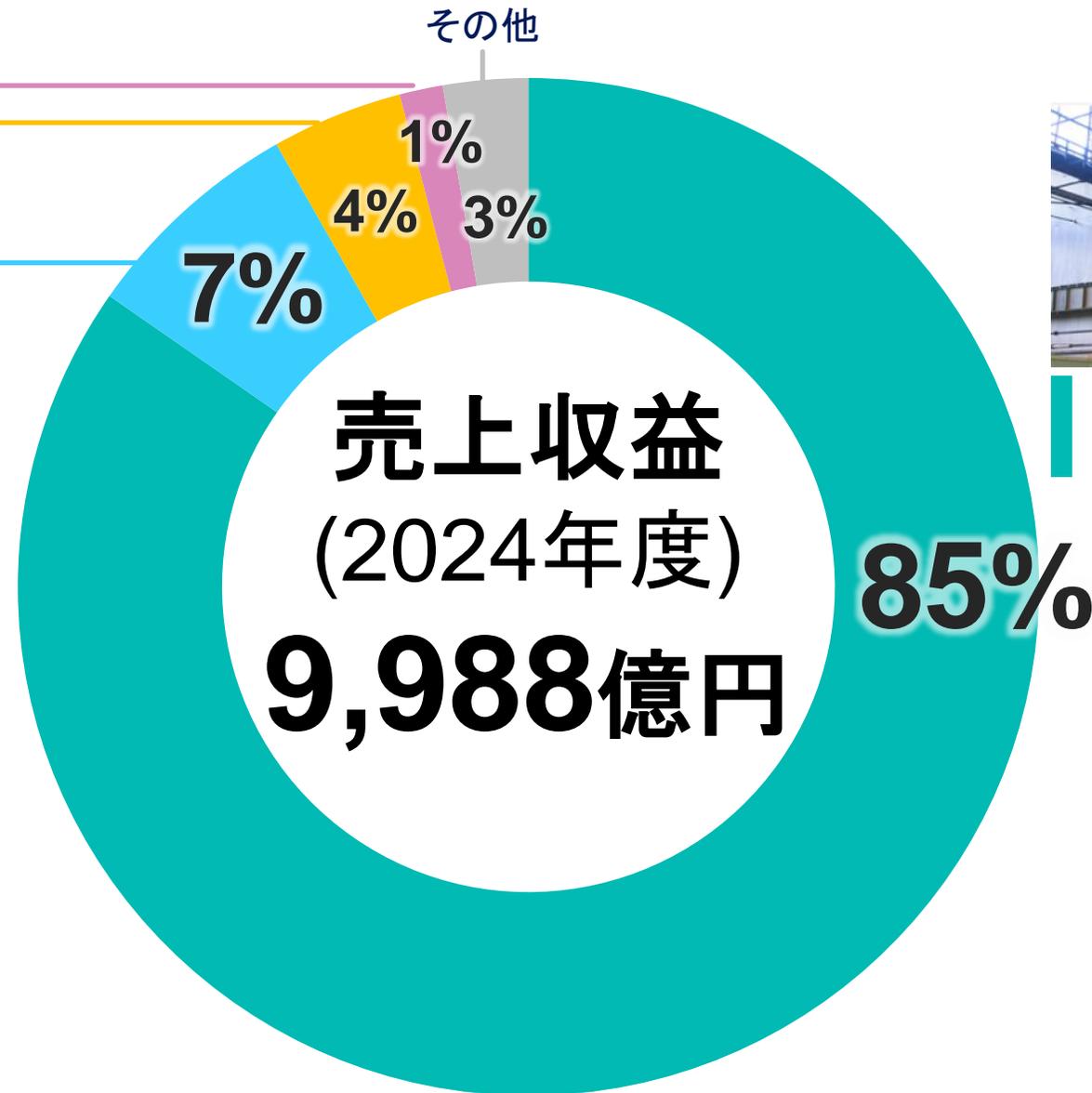
自動車部品事業



押出・加工品事業



板事業



板事業 品種別販売数量

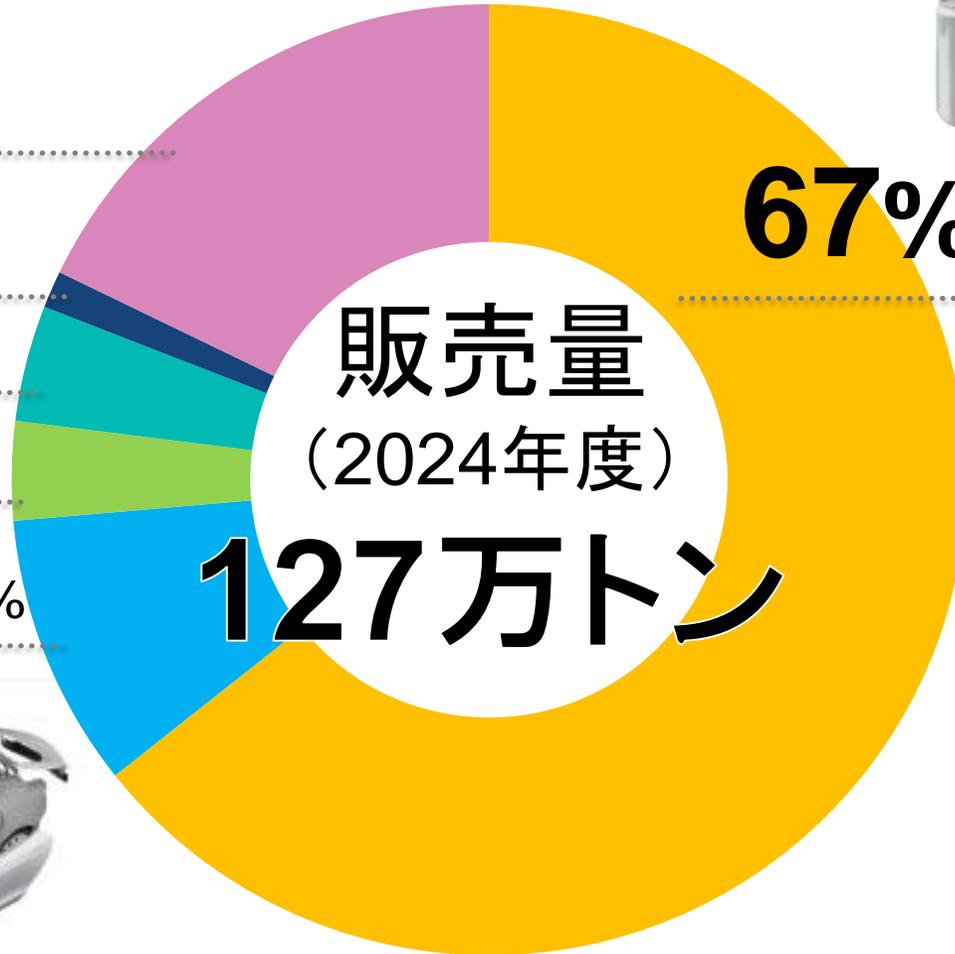
その他 15%

IT材 1%

厚板 3%

箔地 3%

自動車材 11%



67% 缶材

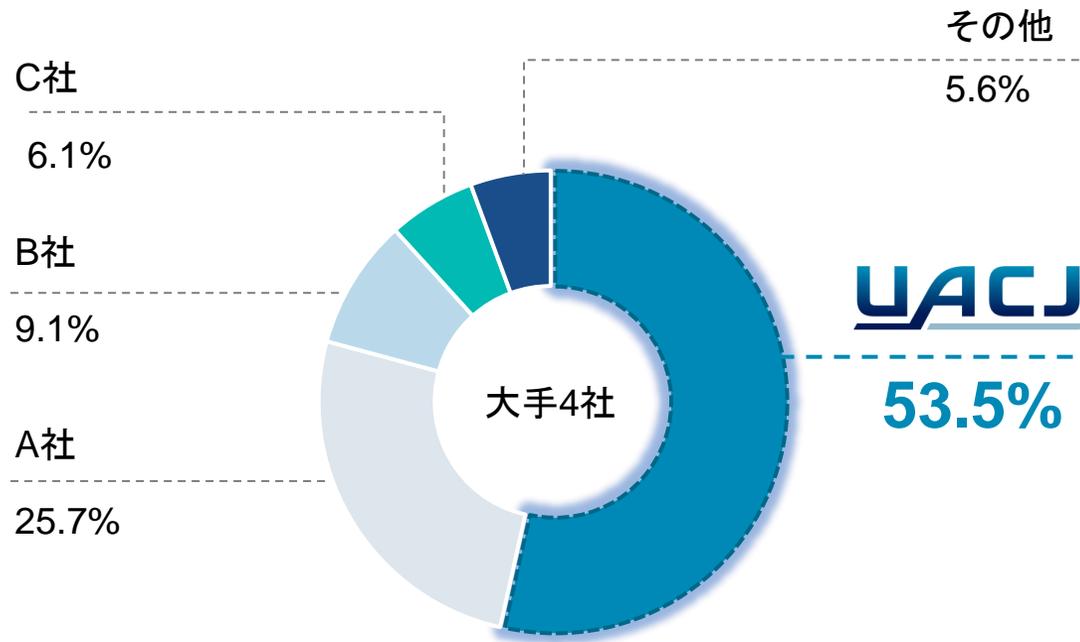


国内における圧倒的なマーケットシェアと、世界トップクラスの販売量

国内におけるマーケットシェア

FY24時点

アルミニウム圧延品国内生産量比率(%)

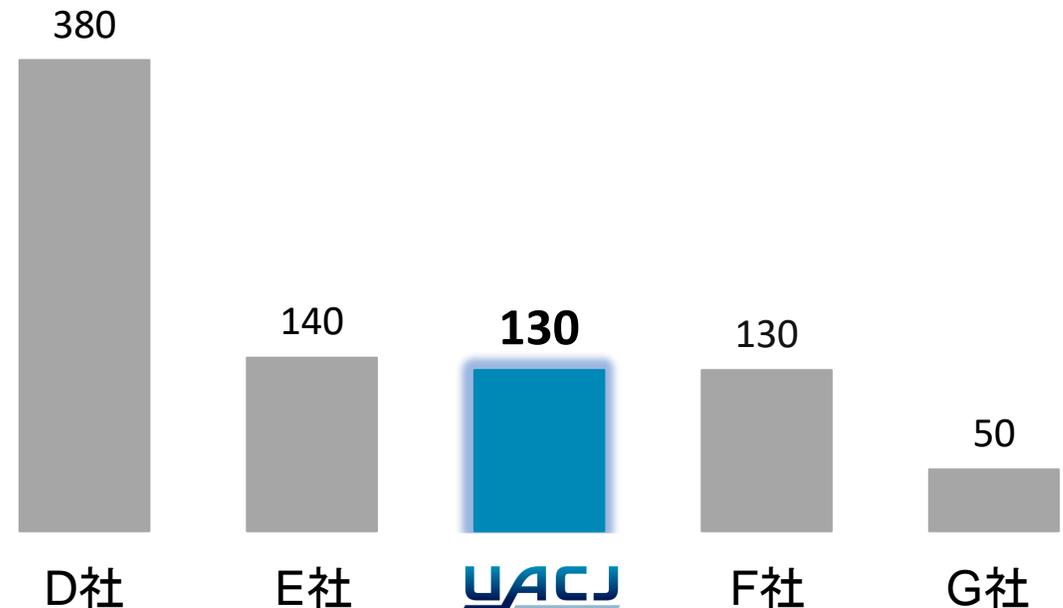


アルミニウム圧延品市場で約5割のシェア。
国内における圧倒的なマーケットシェアを有しています

グローバルにおける販売量ランキング

FY24時点

アルミニウムシート・板材グローバル販売量(万トン)



販売量は年間約130万トンに達し
世界トップクラス的能力を有しています

世界3極での生産・販売体制

グローバルでの生産体制の確立と、地産地消のローカル戦略を展開



日本：強固な顧客基盤、
事業間の連携による
多彩な加工力

生産能力：約 65万トン/年



名古屋製造所



福井製造所



深谷製造所

グローバル生産能力
約150万トン
(2027年度目標)



TAA：旺盛な北米需要を獲得

生産能力：約 45万トン/年



UATH：東南アジア地域の基幹工場

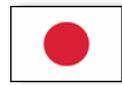
同地域における唯一のアルミニウム圧延の一貫工場

生産能力：約 34万トン/年



UACJの拠点ごとの品種構成

各地のニーズに合わせた能力を生かす生産体制を構築



日本

生産能力: 約 65万トン/年

名古屋製造所: 約30万t/年

福井製造所 : 約30万t/年

深谷製造所 : 約5万t/年



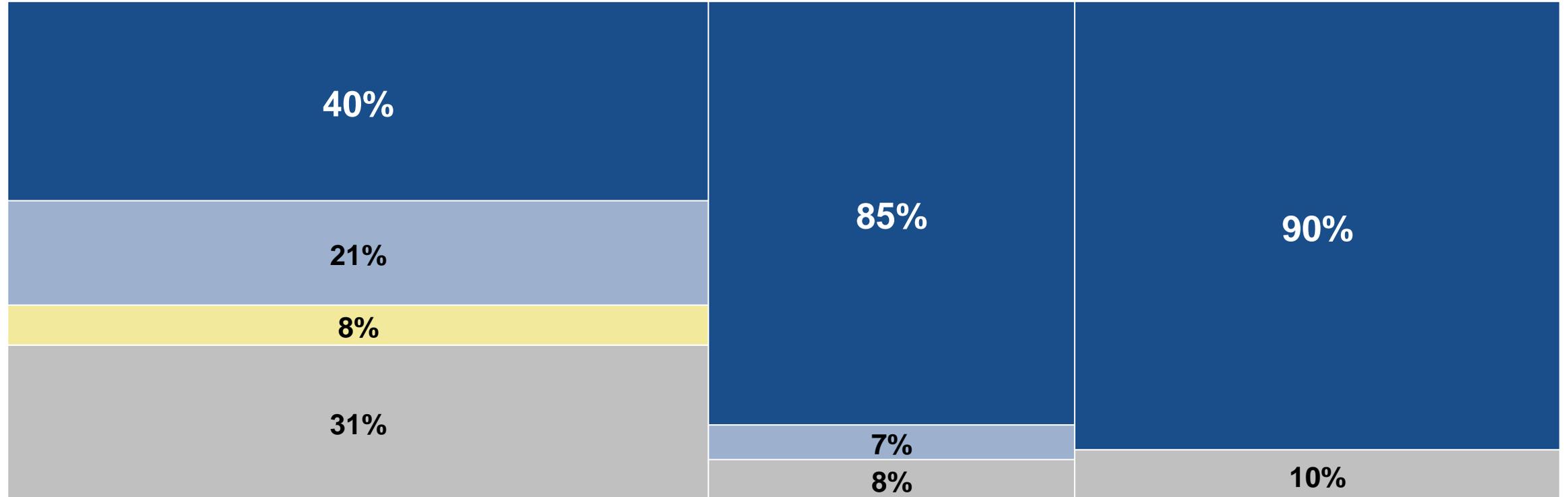
UATH

生産能力: 約 34万トン/年



TAA

生産能力: 約 45万トン/年



■ 缶材 ■ 自動車関連(パネル, 熱交材) ■ 厚板 ■ その他

2. アルミニウムとは



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

アルミニウムの豊富な特性



低温に
強い

電気を
よく通す

光や熱を
反射する

サビない

真空特性
が良い

熱をよく
伝える

毒性が
無い

軽い

溶かし
やすい

強い

接合し
やすい

リサイクル性
に優れる

美しい

磁石に
つかない

加工
しやすい



注目の特性、“リサイクル特性”



リサイクル性に優れる

- 🔥 アルミニウムは、**新地金の製造で多くのGHG***を排出
- 🔥 リサイクル材を活用することで、GHG排出量は**新地金製造の3%に低減**

すでに精錬されたアルミニウムのリサイクルを続けることで、
アルミ産業全体のGHG排出量を低減させることが可能になる

新地金製造時のGHG排出量



リサイクル材活用時のGHG排出量



出所: 日本アルミニウム協会

*GHG 温室効果ガス、Geenhouse Gasの略称。

アルミは生活のすぐそばで活躍する素材

リサイクル性
に優れる

飲料缶分野

毒性が
無い

医薬品・食品分野



IT分野

軽い 強い



軽い 強い

熱を
良く通す

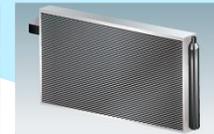
自動車分野



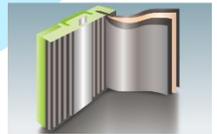
ボディパネル材



構造部材



熱交換器材



バッテリーモジュール材



航空・宇宙分野、 交通分野



アルミニウム需要の変化



1890年代

日本で初めてアルミが
食器類へ採用



1971年

アルミ缶のビールが誕生



1990年

高性能スポーツカーに
アルミニウムが採用
(オールアルミ)



2007年

アルミを使用した
パソコンが発売



2021年～現在
環境意識の高まりを背景に
アルミ缶等がさらに拡大



3. UACJの成長戦略



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

3-1.

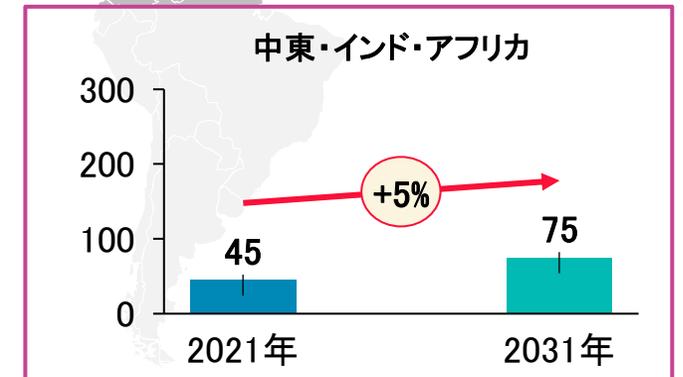
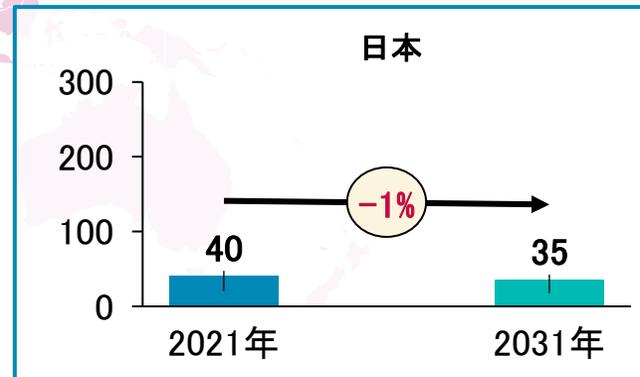
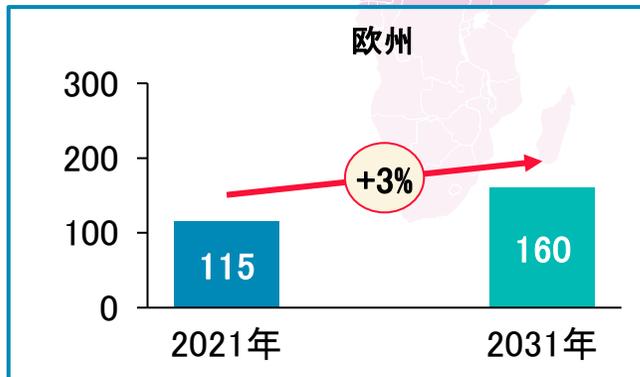
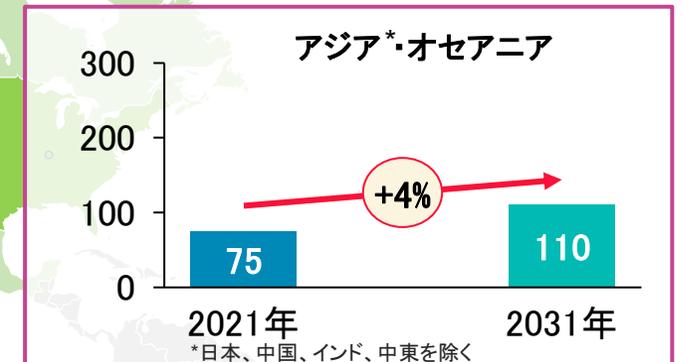
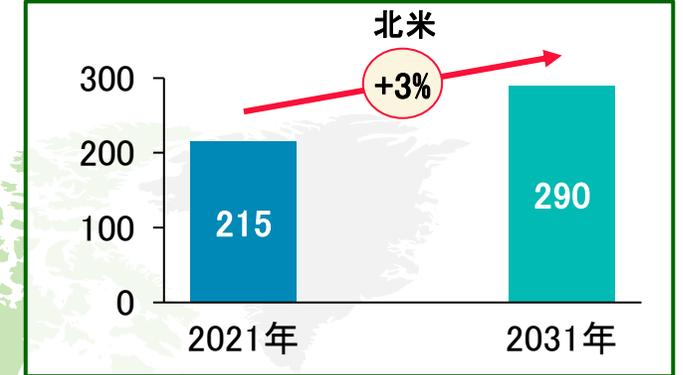
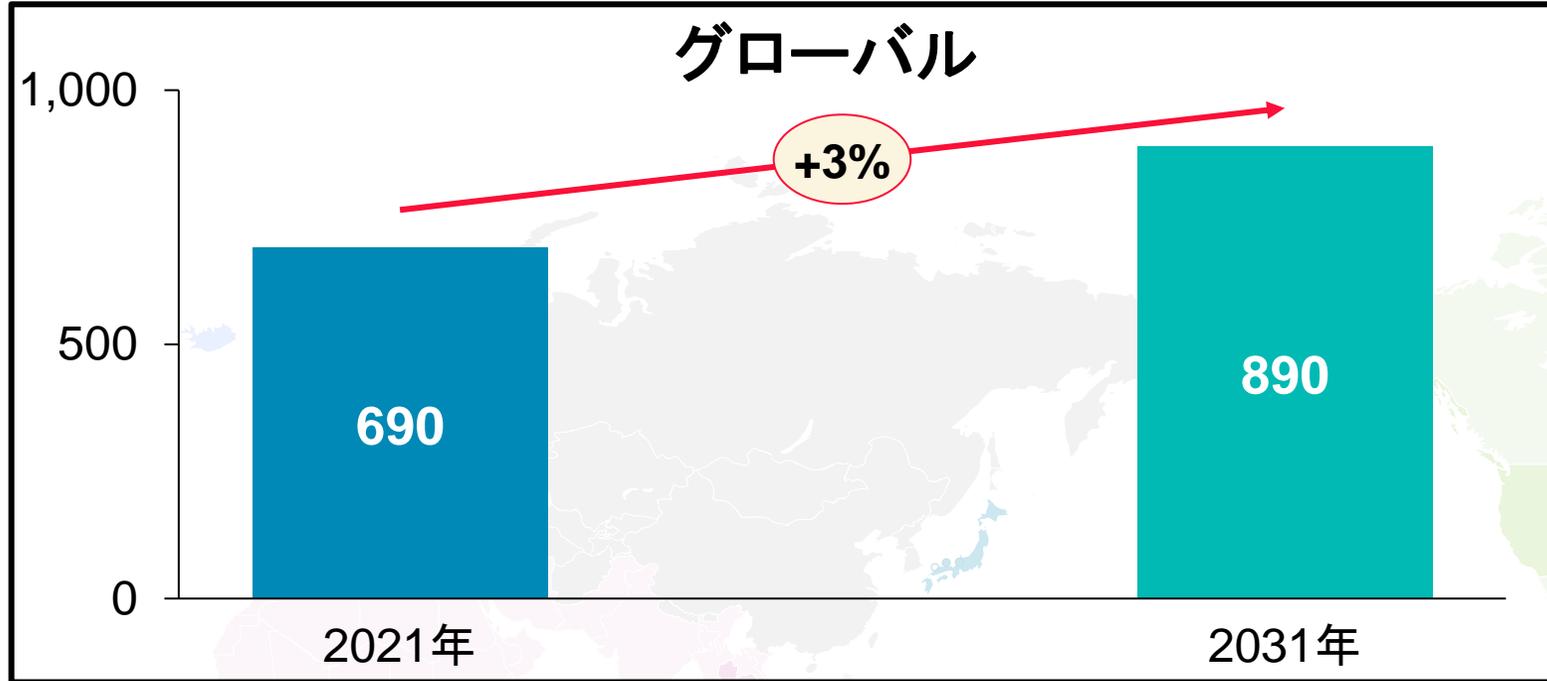
アルミニウム市場の拡大と UACJの成長



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

アルミ缶材の需要見通し(グローバルとUACJの供給地域)

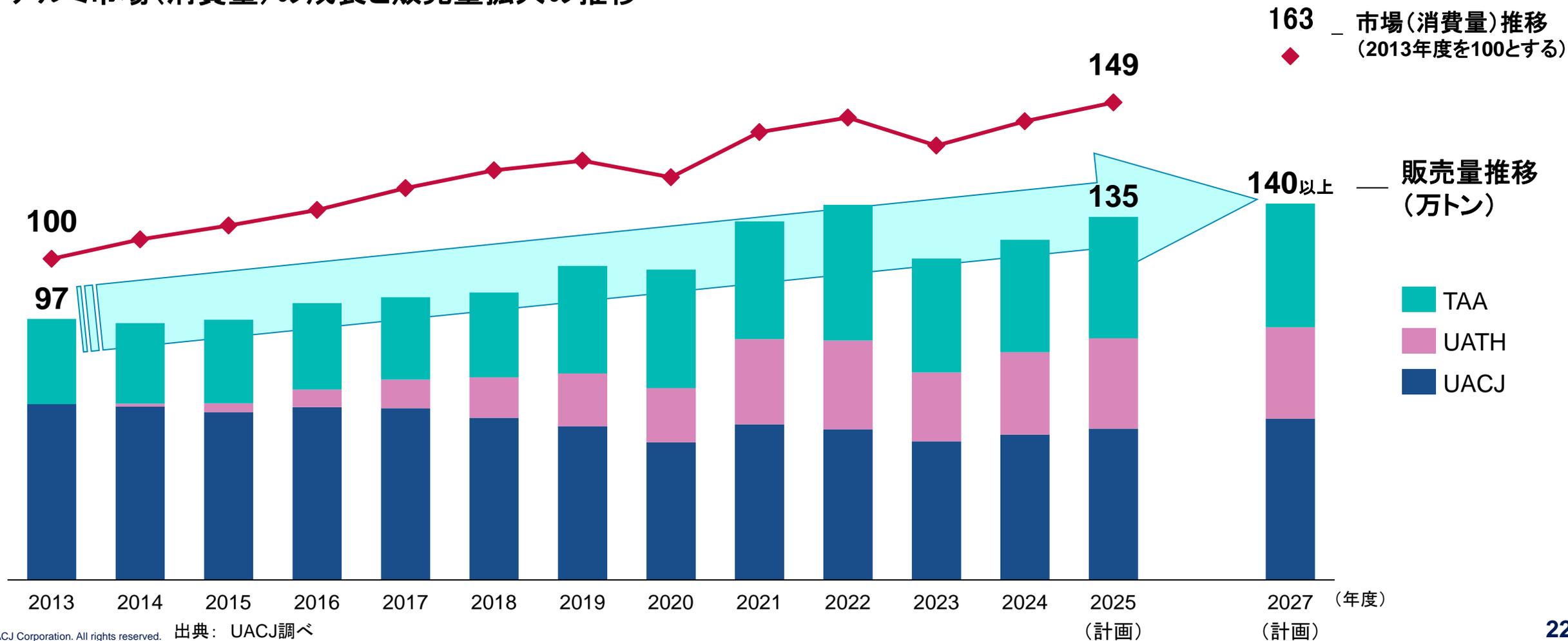
(単位:万トン)
伸び率はCAGR



UACJの販売量拡大

アルミニウムの市場拡大を捕捉し、販売量が増加

アルミ市場(消費量)の成長と販売量拡大の推移



戦略的投資による企業価値向上

2013～2023年度

統合後10年間の成長投資

総額**2,000**億円規模

グローバル化を進め、量・シェアを獲得

【1,500億円】 UATH/TAA

グローバルな缶材需要の伸びを中心とした投資

【200億円】 日本

自動車軽量化の時流に合わせたボディパネルの投資

2024～2027年度

第4次中計期間中の投資

総額**800**億円規模



成長率の高い分野に優先的に投資

【220億円】 リサイクル ※UATH/TAA/日本の缶材リサイクル

【150億円】 自動車

【100億円】 航空宇宙・防衛

【100億円】 缶材

2028～2030年度

第5次中計期間中の投資

投資規模検討中

**2030年以降の継続的な成長に向けて
投資内容・規模を策定中**

投資のアウトカム

2023年度

事業利益: 434億円

2027年度(予)

事業利益: 600億円

2030年度へ向けたさらなる
利益・キャッシュ創出

事業利益: 600億円+α

3-2.

第4次中期経営計画 【2024年度～2027年度】



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献



UACJを取り巻く環境の変化

変わりゆく世界



アルミニウムを取り巻く市場環境

UACJの稼ぐ力の向上

様々な改革を通じて、国内&海外事業共に稼ぐ水準が一段上昇

構造改革の 完遂

- 損益分岐点の引き下げ
- 最適生産体制の構築
- 事業の選択と集中
- 取締役、執行役員の人数削減

値決めの 構造改革

- エネルギーサーチャージ制の導入
- 物流費上昇の転嫁スキーム
- 物価高騰、環境対応投資に伴う
ロールマージンの値上げ

海外事業の 収益貢献拡大

- TAA: 収益大幅拡大
- UATH: 工場立ち上げ、収益拡大
- UWH: 戦略的投資の実施

FY2018~FY2023
事業利益*の推移



2030年に向けた事業利益の目標(第4次中期経営計画の位置づけ)

第4次中期経営計画

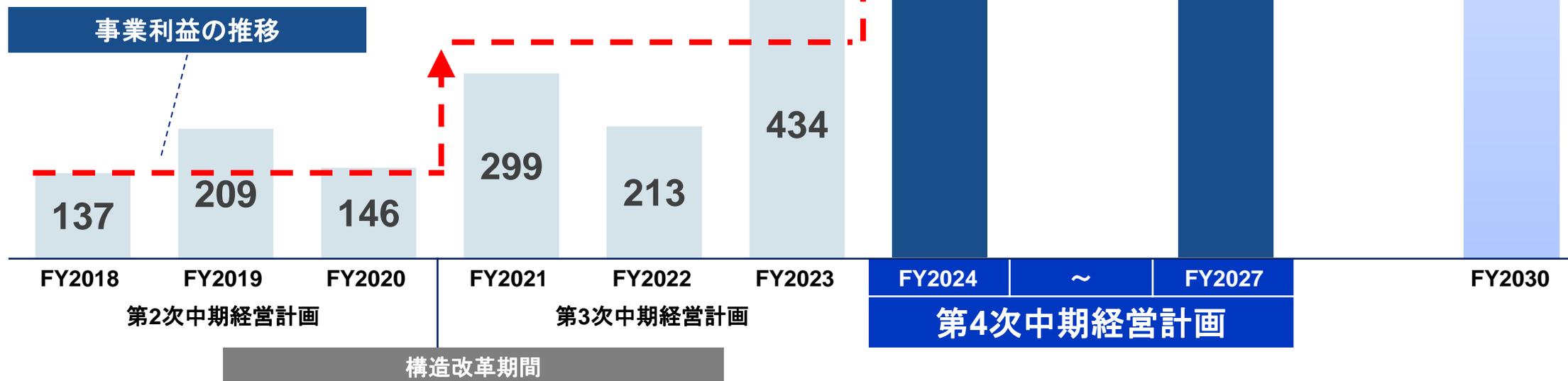
「素材+α」の付加価値提供企業へ
～稼ぐ、繋ぐ、軽やかに～

UACJ VISION 2030

重点方針

1. 成長戦略・付加価値戦略
2. 事業の強靱化
3. 基盤の強化

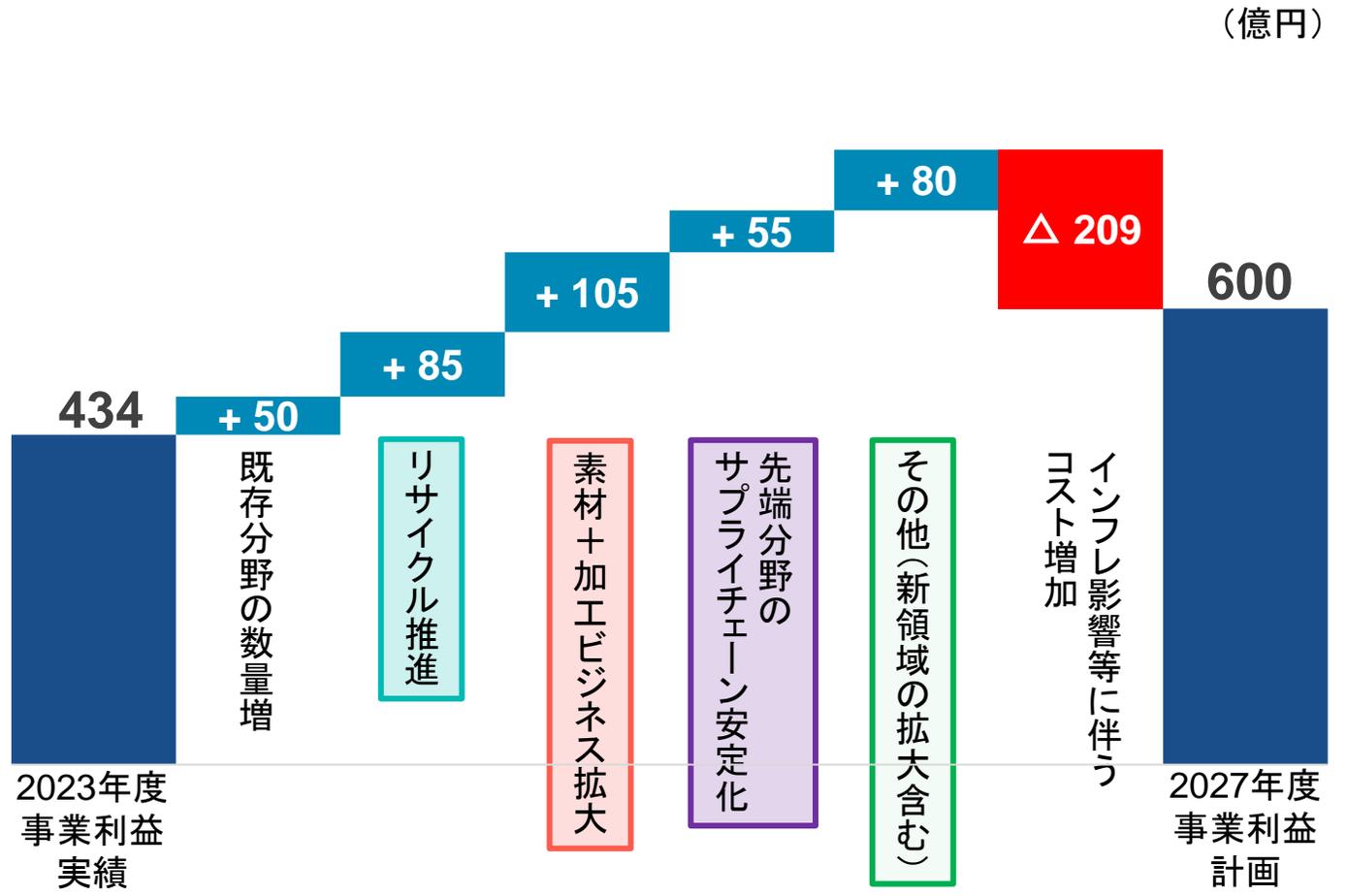
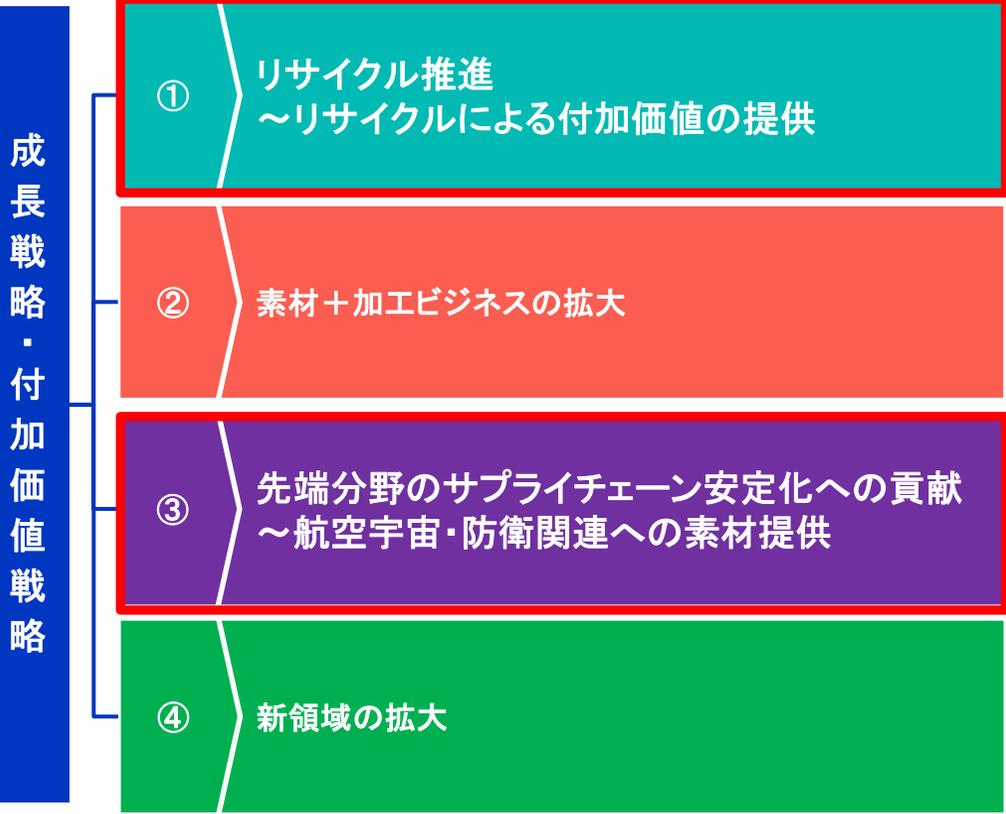
(億円)



第4次中期経営計画【2024～2027年度】 実施する取り組み

素材提供企業から、「素材+α」の付加価値提供企業へ

4次中計における“+α”の分野



3-3.

リサイクルによる付加価値の提供



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

UACJのリサイクルへの取り組み

カーボンニュートラル挑戦宣言

【Scope1, 2】 (2022年11月公表)

2030年度目標 30%削減*1

2050年 カーボンニュートラルへ挑戦

【Scope3】 (2023年12月公表)

2030年度目標 30%削減*2

2050年 CO₂等のGHG*3排出削減活動を行い、
GHG排出最小化を目指す

*1 2019年度比・原単位

*2 2019年度比・原単位、Category1

*3 温室効果ガス。Greenhouse gasの略

UACJリサイクル率*4 達成目標設定 (2023年12月公表)

2030年度目標値 **80%**

(2019年度実績値65%)

*4 UACJリサイクル率定義

- ・純アルミ(1000系、8000系)材を除く。
- ・対象拠点は国内4製造所、タイ拠点
- ・循環アルミ量/溶解炉への装入量×100
- ・循環アルミ量... 製造業での素材の加工段階で発生するスクラップ+使用済み製品に由来するスクラップ+当社社内の全工程で発生するスクラップ
- ・溶解炉への装入量... 循環アルミ量+アルミニウム新地金+添加金属

UACJは、リサイクルを推進することによって

- 1) アルミスクラップの最大活用により低炭素化を推進
- 2) 資源の循環により、地球環境の保全に貢献

飲料用アルミ缶の循環向上(リサイクル)に向けたグローバルな取り組み

日本



UACJ福井製造所
山一金属様とのJVによる
UBC※1処理ライン新設
2025年度4Qより稼働開始
〈UBCのリサイクル原料への加工設備〉

北米

TAA※2 Logan工場
UBC処理ラインの増設
(2026年度1Q)
〈UBCのシュレッダー処理ラインを増設〉

タイ



UATH※3ラヨン製造所
スクラップ溶解炉増設
2024年度1Qより稼働中
〈スクラップを溶解するサイドウェル式
溶解炉の第4ライン〉



※1 UBC: Used beverage can (使用済み飲料缶)

※2 TAA: Tri-Arrows Aluminum Inc.

※3 UATH: UACJ (Thailand) Co., Ltd.

UACJがアルミ缶リサイクルに取り組む意義

アルミ缶を取り巻く 市場環境の変化

- ✓ 環境意識の高まり
 - ✓ 人口増、経済成長
- ⇒ますます需要は拡大

UACJ

にとっての缶材

- ✓ 主力製品＝**収益の源泉**
- ✓ **3極連携による確実な需要の捕捉**
- ✓ 日本の生産量の半分以上を担う**責任**

販売総量127万トンのうち、

65%が缶材

(24年度実績)

UACJ

“リサイクル”への取り組みを成長機会ととらえ、事業活動を展開

- ✓ リサイクルしやすい素材の新規開発
- ✓ リサイクル関連設備等の立ち上げ
- ✓ お客様と協働し使用済みアルミ材の回収スキームを構築
- ✓ 新たな製品ブランドの構築



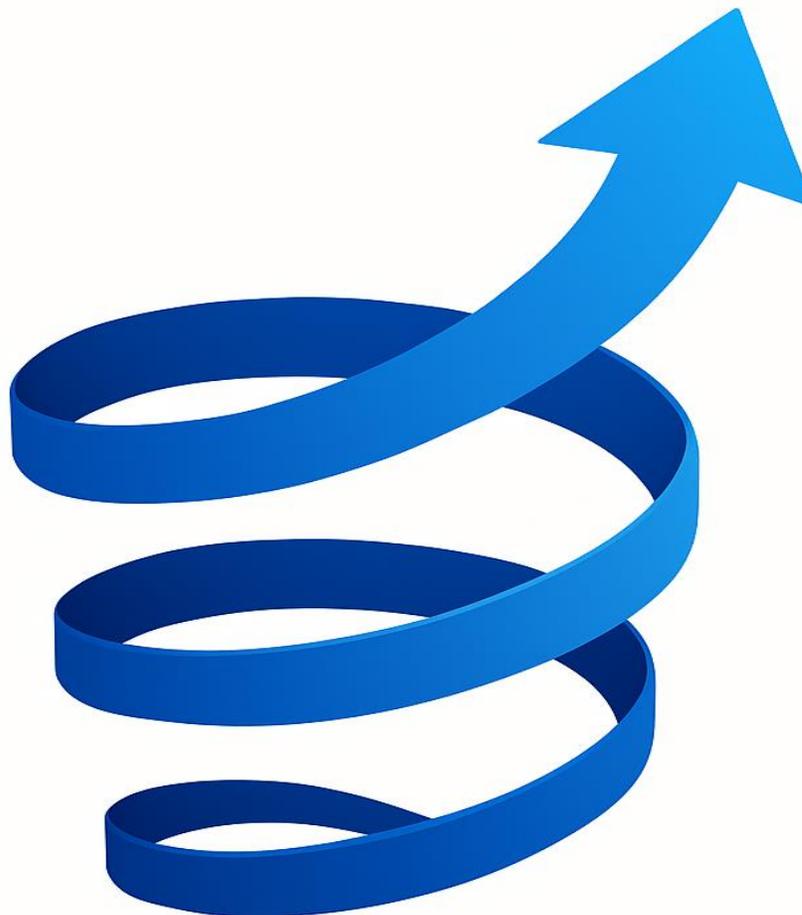
「環境負荷の低減」で生み出された「環境価値の経済価値化」

サステナブルな社会の実現に貢献する

顧客の環境負荷低減に貢献することで、環境負荷の低減と環境価値の経済価値化を推進

環境負荷の低減

- グリーン新地金の調達
- リサイクル関連の設備投資
- 再生原料の調達
- 再生原料活用する合金開発
- 再生可能エネルギーの調達



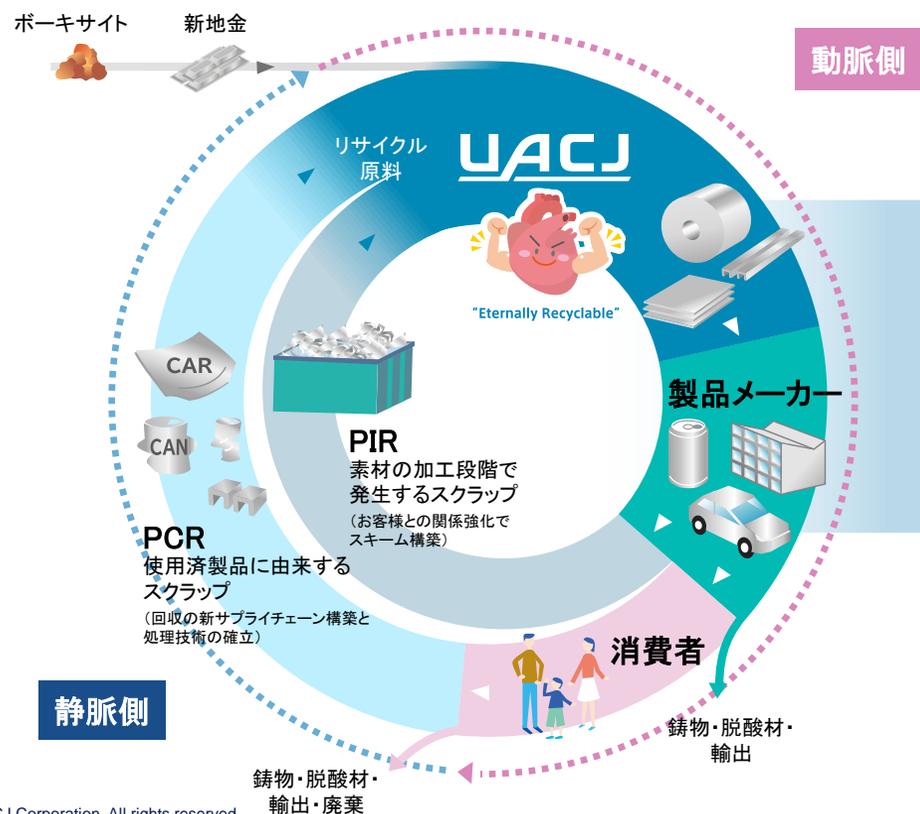
環境価値の経済価値化

- 環境価値の見える化
- 環境配慮型製品の拡充
- 第三者認証の取得
- 環境価値の訴求

UACJの目指す姿

アルミニウム循環の「心臓」となり、 UACJだからこそできるアルミニウムのリサイクルを推進

目指す姿



創出される環境価値

CO₂等の
GHG排出量の
削減

ボーキサイトの
採掘を抑制し、
自然への影響
を低減

軽やかな
世界

3-4. 航空宇宙・防衛関連材の提供



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

航空宇宙・防衛分野の需要動向

航空分野



- 旅客需要の伸び
- 老朽化した旧型機の更新
- GHGの排出削減など環境対策の必要性



新型機への置き換え需要

宇宙分野



© JAXA

- 自動運転などの位置測定
- 温暖化対策・農業用途の環境測定
- 衛星軌道からのデータ通信用途



人工衛星のニーズが増加し、
ロケットの打ち上げ数が増加

防衛分野

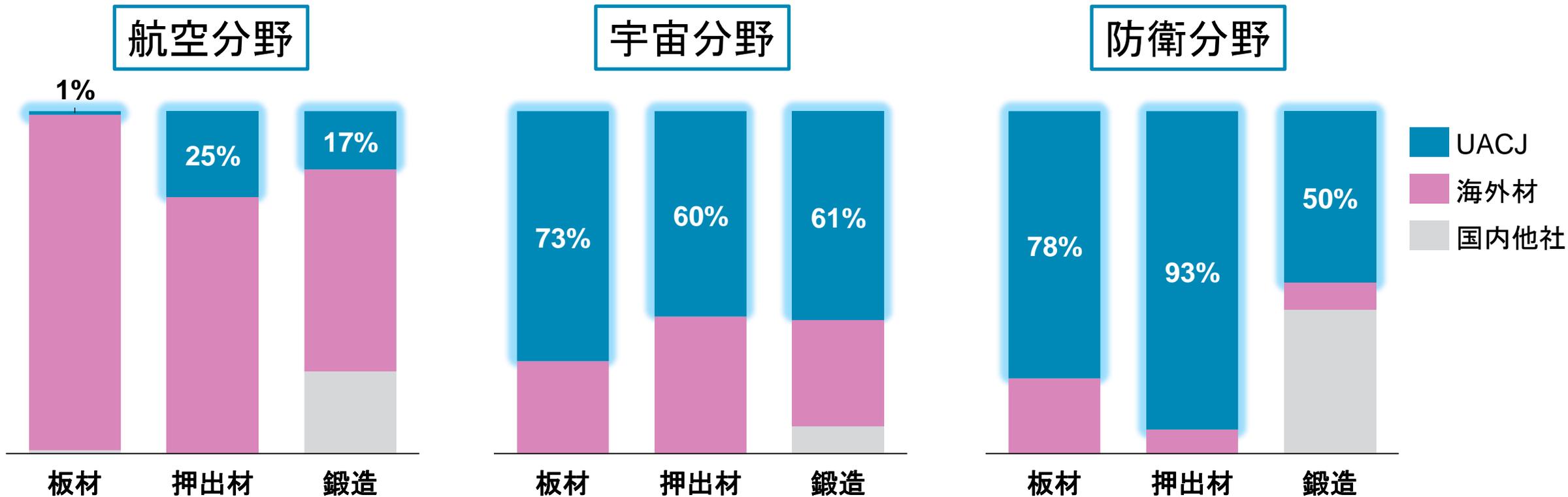


- 日本の防衛関連費



社会情勢の変化に伴い増加

当社のマーケットシェア（国内） ≪国内プライムメーカー様でのシェア≫



※当社調べ

海外材をUACJ材に切り替え
⇒ アルミニウム素材の国内供給へ

国内プライムメーカー様でのシェア増加
国内サプライチェーン安定化へ貢献

航空宇宙・防衛材事業 ～「+α」で、さらなる飛躍～

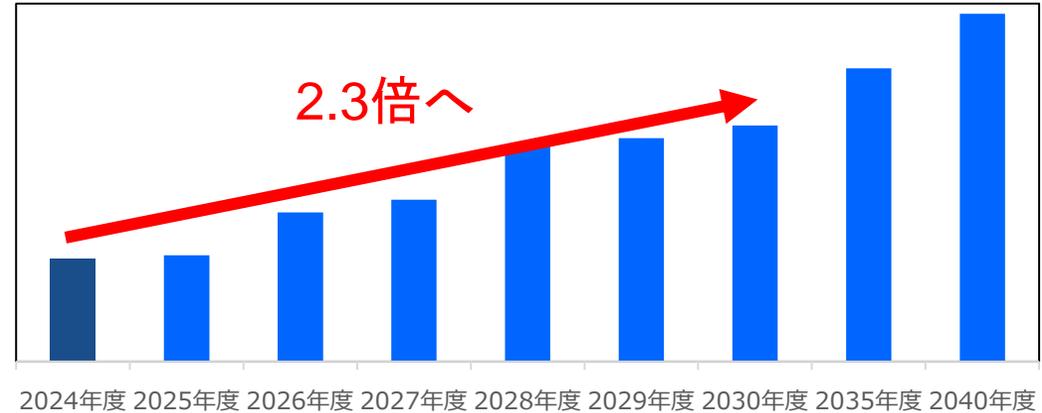
UACJの強み

- ✓ 国内最大級の大型生産設備を使用した大型素材の生産力
 - ✓ お客様のニーズに確実に応えることのできるアルミ合金の開発力
- ⇒国内サプライチェーンの強靱化へ寄与



航空・宇宙・防衛3分野の売上計画

(2024年度実績を100とする)



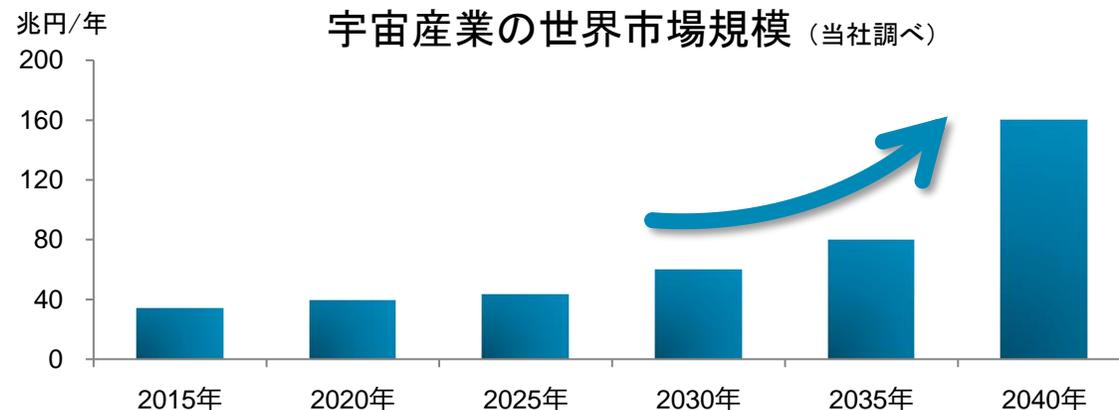
戦略投資 : 先端分野のサプライチェーン安定化への貢献のために

航空宇宙・防衛、半導体製造装置向け厚板焼入れ材生産能力を倍増

深谷製造所へ厚板焼入れ材製造設備を導入

- ✓ 日本最大規模・高効率な設備で、より高品質な製品分野へ
- ✓ 厚板専門工場としての総合力を向上
- ✓ 海外材からの切り替えを目指し、拡販へ

投資総額	約110億円
稼働開始	2027年度下期
生産能力	年間約10,000トン
需要分野	航空機材、宇宙関連材、 防衛装備品、半導体製造装置



深谷製造所全景

4. 業績と株主還元



Aluminum lightens the world

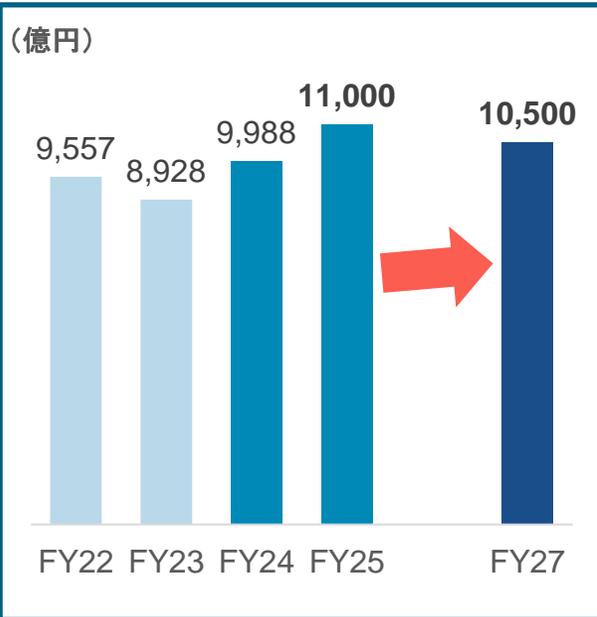
アルミでかなえる、軽やかな世界

第4次中期経営計画 財務目標

27年度で 事業利益600億円、ROE 9%、ROIC 9%以上達成を目指す

売上高

10,500 億円

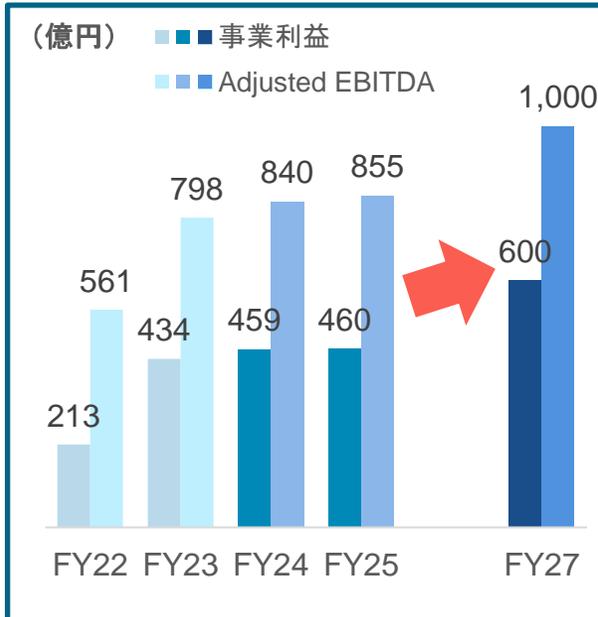


事業利益

600 億円

Adjusted EBITDA*1

1,000 億円

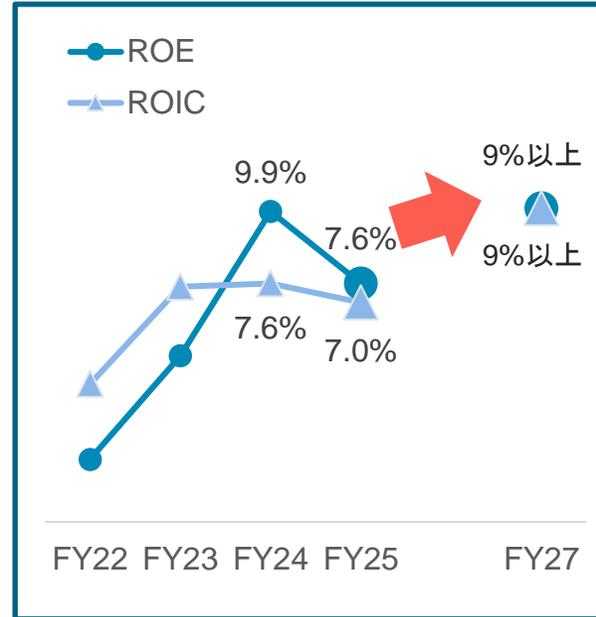


ROE

9%以上

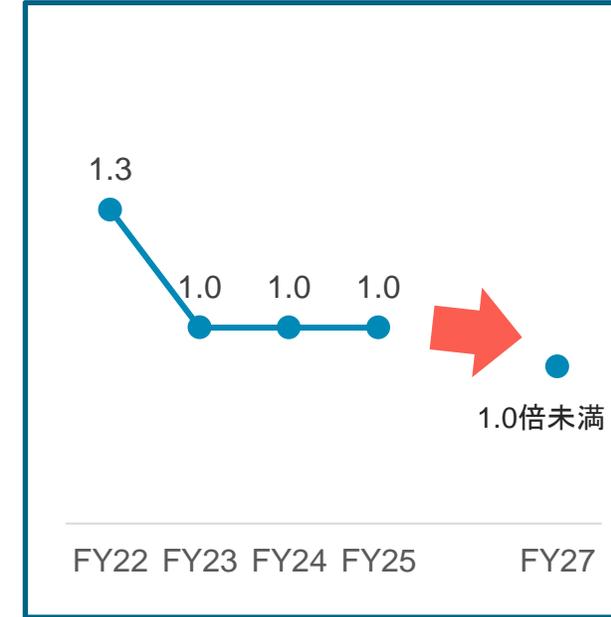
ROIC*2

9%以上



D/Eレシオ*3

1.0 倍未満



*1 Adjusted EBITDA : EBITDA - 棚卸資産影響等

*2 ROIC : 税引前事業利益を基に算出

*3 D/Eレシオは劣後ローンの資本性を考慮

【FY24実績条件】 LME : 2,526 \$/ton、為替 : 143 円/\$

【FY25前提条件】 LME : 2,666 \$/ton、為替 : 148 円/\$

【FY27前提条件】 LME : 2,200 \$/ton、為替 : 140 円/\$

2025年度 業績予想 (2025年11月11日公表)

2025年度計画のポイント

- ✓ 拡大する市場を確実に取り込む
- ✓ 日本国内のお客様との価格改定効果が顕現
- ✓ 海外子会社の調達ノウハウによる収益改善

米国関税政策の主な影響

- ✓ グループ全体で直接的な影響は大きいと想定
⇒ 主要なビジネスは米国内で完結。輸入材への優位性が増す可能性

売上収益

11,000億円

事業利益※

460億円

営業利益

550億円

親会社の所有者に帰属する

当期利益

230億円

前提条件		単位
LME	2,666	\$/t
	148	円/\$
為替レート	32.6	THB/\$
ドバイ原油	67	\$/bbl

※ 地金価格等、一時的な影響を控除したUACJの“稼ぐ力”の指標

株式分割

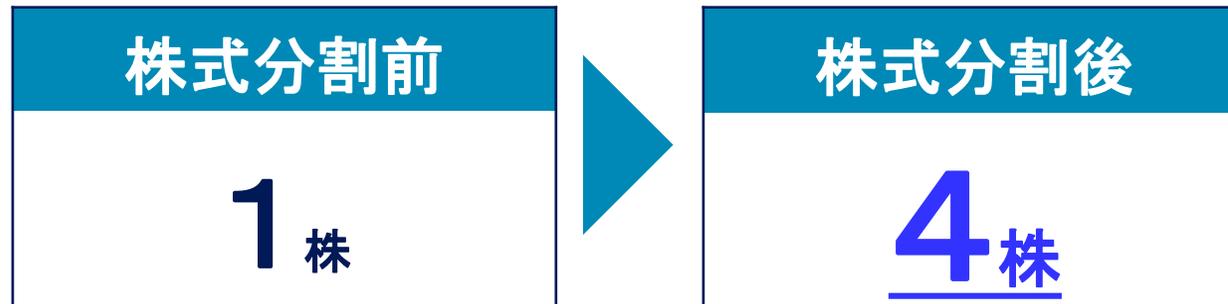
目的:

- 投資単位当たりの金額の引き下げ
 - 流動性の向上
- ⇒ 投資しやすい環境へ



概要: 実施日 **2025年10月1日** (※実施済み)

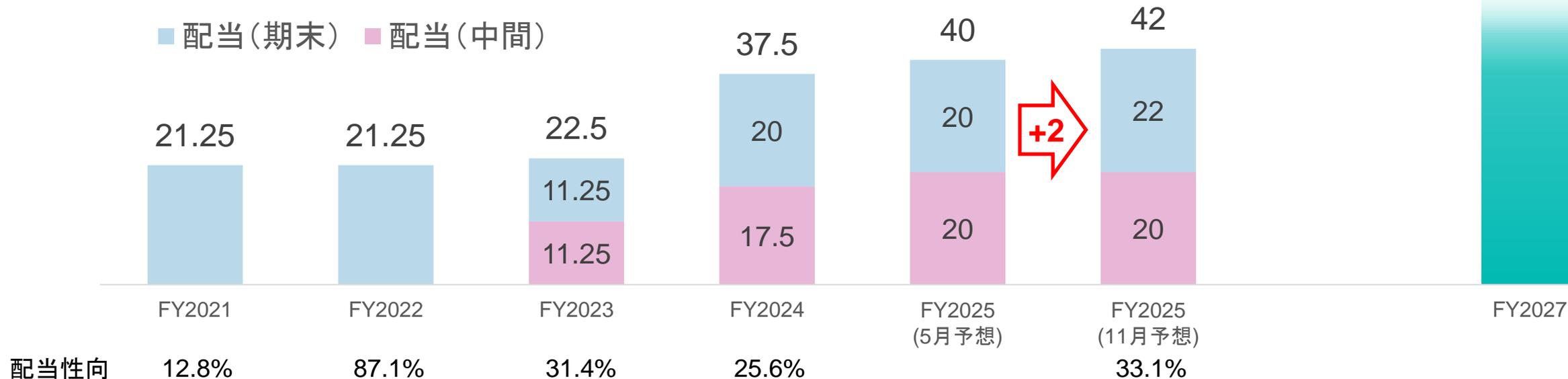
分割比率



配当について

好調な業績を反映し、年間配当金見通しを42円に(5月公表時から2円上方修正)

還元方針 : 最終利益*の30%以上を配当性向の目途とし、安定的かつ継続的な配当を目指す



配当性向

第3次中期経営計画期間
(FY2021~FY2023)

方針: 20%~30%
(3カ年平均実績 24.8%)

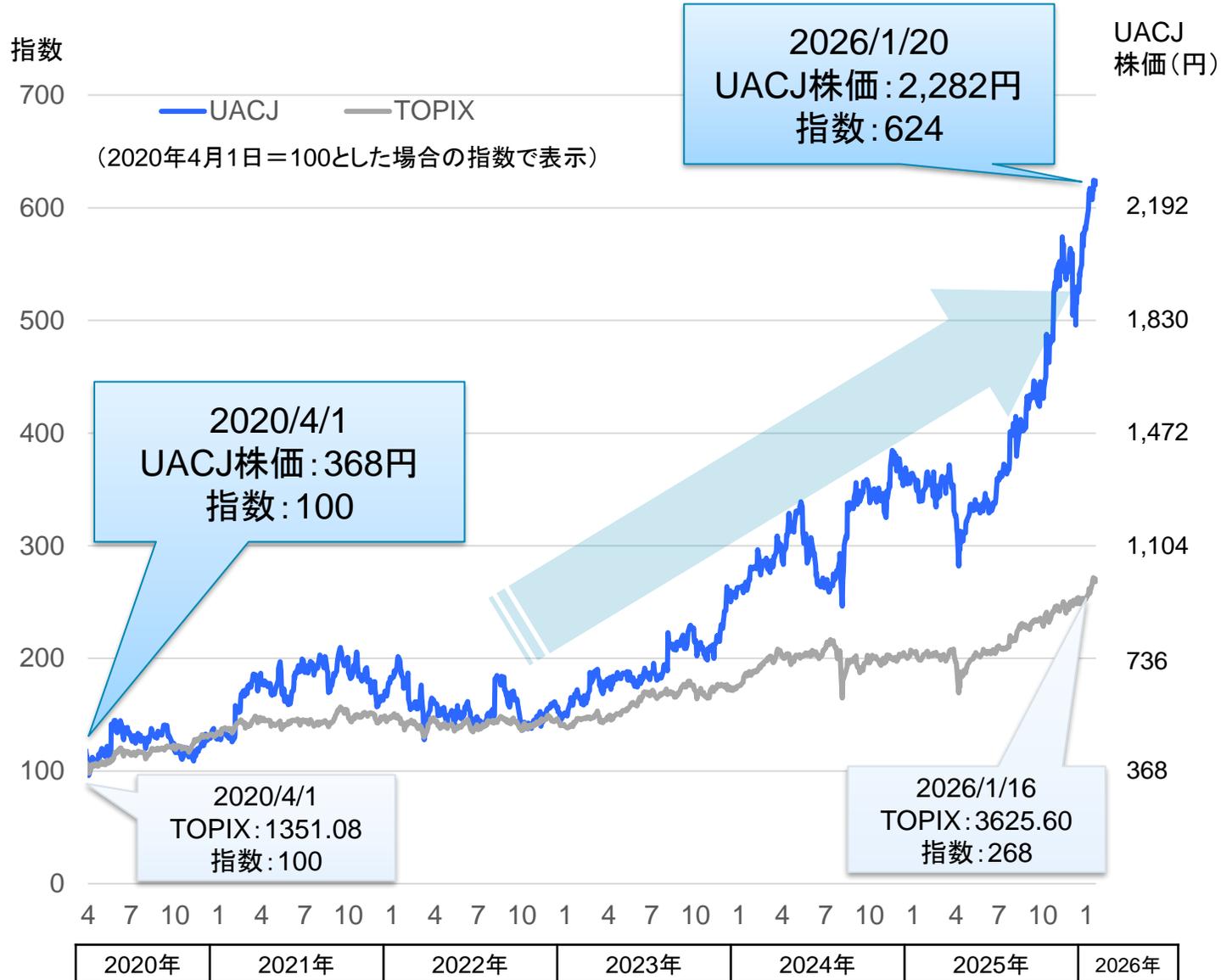


引き上げ

第4次中期経営計画期間
(FY2024~FY2027)

30%以上

株価のTOPIXとの比較(2020年4月～2026年1月20日)



🔍 **2,282円** (2026年1月20日)

- ✓ 業績の拡大に伴い、株価も成長
- ✓ TOPIXと比較しても伸び率は大きい
2020年4月1日を100としたとき
2026年1月20日時点で
UACJ: 624、TOPIX: 268

🔍 **368円**※ (2020年4月1日)

※2020年4月1日の株価は1株を4株に分割(2025年10月1日実施)を考慮後

今後は**“環境価値の経済価値化”**を
ドライバーに成長を目指す

UACJは、素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する企業です。

世界有数の生産力と強固な顧客基盤、ニーズに応える技術力で、

社会課題の解決と企業価値の向上を両立しています。

アルミとあしたへ





Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。
株式会社UACJ 財務本部 IR部

